

第5回 練馬区商工業振興懇談会議事概要

日時：平成22年2月23日（火）午後6時30分～午後8時30分

場所：練馬区役所本庁舎5階 庁議室

《議事次第》

- 1 開会
- 2 議事
提言書（素案）の確認、整理
資料1 練馬区商工業振興懇談会提言書（素案）
- 3 懇談会の進め方（案）について
資料2 商工業振興計画策定に向けたスケジュール（案）
- 4 その他
（1）第4回懇談会会議録（案）について
資料3 第4回練馬区商工業振興懇談会議事概要（案）
（2）第6回商工業振興懇談会は、3月15日（月）午後6時30分から区役所5階庁議室で開催

《出席者（五十音順）》

石黒竜、井戸勤、岩橋栄子、大島いずみ、黒岩健一郎、篠利雄、高橋徳行、長井詳典、元屋恵子、横山正二

《傍聴者》

1名

1 開会

座長

- ・ 定刻になったので第5回練馬区商工業振興懇談会を始める。委員の出欠について事務局より報告願う。

事務局

- ・ 山中、奥津、本田各委員から欠席連絡があり、現在出席者10名である。

2 議事 練馬区商工業振興懇談会提言書（素案）の確認

商工業振興計画策定支援業者

資料1、1「商工業の現状と課題」について説明

委員

- ・ 現状と課題の(1)(2)は他の区でも共通の課題であり現状である。練馬区ならではの特徴と課題と言える(3)のほうをもっとクローズアップしたほうがよいのではないか。

事務局

- ・ 商工業振興について計画する際には、前提条件として(1)(2)についても重要な要素として捉え、厳しい条件をきちんと認識し、(3)の特徴も活かしながら進めることが大事である。

委員

- ・ 提言の頭に練馬区の特徴が記載されているが、「住み心地が良く、定住意向が高い」は主観的で特徴という言い方はできないのではないか。特徴と並列するのはいかなるものか。また、1-1(1)厳しい経営環境の2行目、「金融危機による世界的不況の影響で厳しい現在の景気動向の中で、」の一文は文意がとりにくく、分かりづらい。「現在は金融危機による世界的不況の影響で景気状況が厳しく、」などの順番のほうが分かり易い。また、この章の最終段にある空き店舗の話は将来的な展望の話が入っており、現状としてふさわしくないのではないか。
- ・ また、(2)の転換期を迎える商工業の中で「サービスや快適さを商品として購入する」の具体的内容が思いつかない。どうやってこれらを商品として購入するのか。商品の付加価値ではないか。また、区内の工場の減少傾向は環境に配慮したものづくりが求められていることが原因はないので、因果関係にあるかのような書き方はおかしい。

- ・ 1 - 2 の (2) では、ア～オの主体が一貫しておらず、読んだ時に、言われている主体が誰なのか分かりづらい。事業者が実施すべき課題なのか、区の実行すべき課題なのか、区民が意識しなければいけない課題なのか、はっきりさせる必要があるのではないか。
- ・ 最後に、(3) のイでイベントや若者の居場所作りについて記載されているが、若者の居場所づくりはイベントやアニメと関連させるべきではなく、もっとしっかり別の方策を考えていくべきものであり、ここで乗せるべき話ではない。

委員

- ・ 現状についても議論するのも良いが、この後何をすることが大事なのではないか。魅力ある斬新なアイデアで客を感動させることが大事になる。行政に対応を求めるような視点ではなく、商店街の個々の商店が主体的になるような視点を入れるほうが良いのではないか。

委員

- ・ 何も無いところから議論することは困難であるが、このように情報が揃うと議論しやすい。文言について主語と述語が一致していない部分が多くあるので、言葉遣いについて見直してもらいたい。また、「空き店舗が埋まるまでに」という表現では、「埋まる」は口語的なので、提言書に盛り込むのは抵抗を感じる。別の表現にしてもらいたい。また 1 - 1 (3) の第一段落から第二段落にかけて、「まず第一に～、一方では～、例えば～」という論の展開方法は少し無理があるので、表現を再考するほうが良いと思う。
- ・ また、「区民参加」という視点は新鮮な視点であり、この点が加わっていることは重要であると思われるが、やや唐突な印象があるので、もう少し区民が馴染んでいけるような展開を入れてもらえればと思う。

座長

- ・ 多くの区民にとって分かり易いものを心がけたいので、表現について、読みにくい部分や理解し難い部分をご指摘いただければ、とても参考になる。また、前提知識が共通でないので、別の意味に受け取られる表現もあると思われるので、そのような点も指摘してもらえれば最終的に仕上げる際に参考になる。

委員

- ・ 1 - 1 (1) と (2) でインターネットについての記述が重なっているので、ここを整理したほうが良い。方法の 1 つとしては、消費者の動向、競合の動向、自分たち(事業者)の動向、最後に豊富な産業資源、という分け方が考えられる。また(1)(2) は長期的な視点、短期的な視点に分けて記述するとスッキリすると思う。後は、記述

の裏づけとなる根拠データを資料としてつけ、それがどの表から明らかになるかを結びつけてもらえると分かり易くなると思う。

事務局

- ・ データ集は商工業振興計画のほうに入る予定にしており、こちらの提言集に入れる予定はない。

座長

- ・ そうであれば、我々が提言書を作成する際に、データを確認しながら記述するにとどめることで良いのではないか。

委員

- ・ 1 - 2 (3) イに「世界的規模の観光地」との表現があるが、まだ観光地にもなっていない状態で、世界的規模をうたうのはおかしいと思う。将来的にはそうなりたいという展望なのだということがはっきり分かるような表現にしたほうが良いと思う。

委員

- ・ 同様の箇所、アニメが日本の誇る製品であり、世界から日本アニメに対する興味が高まっている中で、日本にそのような興味を持つ世界の人々を受け入れる拠点が無いということを強調してもらいたい。その拠点が練馬にできれば、経済が変わると思う。提言なので、実現可能性よりも、目標を掲げることが重要である。

座長

- ・ 「商工業の現状と課題」の中には、商工業をとりまく環境、現状、課題の3つが含まれているが、この整理がまだされていないのではないか。課題はここで述べずに、環境と現状だけをここで書くほうが分かり易いのかもしれないと今考えている。文言も含めて、可能な限りすっきりした形で整理していきたい。

商工業振興計画策定支援業者

資料1中、2「商工業振興に向けた提案」について説明

委員

- ・ 注があっても片仮名の表現が分かりにくいので、高齢者への配慮も含めて変えてもらいたい。「インキュベート」「ニーズ」「トレンド」について特に片仮名でなく、もっと分かり易い表現が良いと思った。

委員

- ・ 出た意見を漏れなく書いたという印象なので、文章はもう少し工夫してもらおうとして、現状の分析が大事なのではないかと思う。また、アニメだけでなく、区全体を牽引する産業として、まとまりのあるものが必要ではないか。
- ・ 産学官の積極的連携では、学生の活用だけでなく、地元にある大学の卒業生が地元である練馬区で就職したいと思わせるような方策を入れることも大事ではないか。指導、場所の提供などで方法論は色々あると思う。
- ・ 工場の移転問題は環境問題が言われるよりもっと前から問題になっていた。音、臭い、煙などの問題で、人が集まるところでは工場は作れなくなっていったのだが、シンガポールなどでは工場団地などを作り、一般的なオフィスで工業ができるような時代になっており、その技術の変化についても知ってもらいたい。工場ができると、産業が活性化することも知ってもらえたらと思う。鉄やバイオなど、将来的に期待できるものに力を入れていってほしい。

座長

- ・ 産学連携を課題に入れるのか、方向性に入れるのかは検討する必要があると思う。

委員

- ・ 字句の単純な修正として、P10の4行目、コミュニティの「テ」が抜けている。また、同じページの下から6行目「図ってしていく」は「図っていく」が正しいと思う。
- ・ P7の四角囲みで掲げたキャッチフレーズに対応していくように2-2の取組をまとめたほうが良いのではないか。具体的には、一番最初に街の魅力を活かすためのこと、次にみどりとの調和、といった記述の順番が良い。

委員

- ・ P7の4つの順番と内容については、一番重要なことが冒頭に来るべきだと思うし、その内容は「区民とともに活性化する産業活動」ではなく、「まちの魅力を引き出し、にぎわいをもたらす産業活動」だと思う。この具体的取組については、どこに重点を置くかを頭において並べ替える必要があるのではないか。
- ・ 産学官の連携については課題で述べられただけで方向性では述べられてないので、ここをポイントとして、方向性の中でも取り上げるほうが良いのではないか。

委員

- ・ 羅列ではなく、構造化して記述するほうが頭に入り易いと思う。方向性で示された4つのと具体的取組の順番がリンクしていないので、構造が見えにくいので、整理してもらえたらと思う。

- ・ 「にぎわい」や「魅力」という素晴らしいキーワードが展開されているので、この部分のメッセージがもっと明確になるような手がかり、説明を入れると良いのではないか。
- ・ 2 - 2の具体的取組に関しては、順番、大小、重さの区別がなく並列されているので、整理してもらいたい。最初の4つだけわかればスッと頭に入るようなものであれば一番良いと思う。
- ・ アニメについてはここが発祥の地であることが明確になるように、他の地区と差別化できるような取組を打ち出してもらいたい。

座長

- ・ 提言書に図や絵は入らないのか。この提言の構成が分かると理解しやすいのでは。

事務局

- ・ 絵を入れることは予定していなかったが、検討してみたい。

事務局

- ・ 今出た意見をまとめると、道筋を明確にするためには、P7にあるキャッチフレーズを4つか5つくらいで説明する項目が必要で、更にその項目に沿った具体的取組についての記載が必要であるという指摘と思われる。

委員

- ・ アニメの取組について、練馬区ならではの取組が欲しい。番組を制作して配信している会社があるという強みを生かした取組ができないだろうか。商店を紹介する番組の制作などまで広げていけないか。テレビ局の話しでは、2分くらいなら枠が使えるとのことであった。

委員

- ・ 農業は生産緑地として指定されていれば、すぐに廃業できないので、比較的安定している。商店街も商業地として指定されているのに、商売の継続を規定するような法体制が整っていないので、店が住宅になってしまったり、商店街自体がなくなったりする。もっと突っ込んだ商店街としての指定をしてもらえないだろうか。また、まちづくりの問題としてこの商店街の指定や規制を考えているのか。

委員

- ・ 商店街の維持は重要な問題であるが、まちづくりというアプローチから規定することは困難である。都市計画上は、準商業地域や商業地域として指定されている地域については、建ぺい率の規制が住宅地よりゆるく設定されているだけで、商業の継続を義務と

して課すような法制度を設けてはいない。しかし、商業を行い易い環境を作っていく必要性は理解しており、地区計画において、電線の地中化などを推進している。

また、商店がなくなってしまう問題については、個人商店主が事業を身内以外に継承させることや、元商店主が不動産オーナーとして生活の維持ができるような仕組みを作れないかと模索している。実際に原宿や神楽坂ではこの仕組みが機能しているので、参考として検討している。

委員

- ・ 問題解決にはアイデアが必要である。代々伝わっている土地は簡単に手放せないが、意識を変えて、豊かさを維持できるアイデアがあれば変わっていく。豊かさゆとりのために資源を活用していくことが大事だと再認識してほしい。自分たちから出来てきたアイデアを実現していかなければならない。

委員

- ・ 私の近所の商店街も空き店舗が目立つようになっている。いったん住宅になってしまった店舗を復活させることは困難であるが、事業主はあまり現状を変えようという気持ちはなく、自分一代限りで商売を辞めて廃業していくような商店が多いようである。その中でがんばって営業している商店があるのだが、その店では駐輪場がないことが悩みになっている。近所の人が集まるような憩いの場所になるような商店なのだが、駐輪場が少ないので、利用が制限される。周囲の家や店にも遠慮している。駐輪場があればもっと利用が活発になると思うが、このような問題を相談する場所や窓口がない。

委員

- ・ これは自発的に商店や商店街が解決する問題ではないか。行政に言って解決してもらおうようなことではない。商店街も40代くらいの方がリーダーシップを取れば、活発になると思う。

事務局

- ・ 駐輪場整備の主体はまず第一に商店街である。区の直営で整備することは困難であるが、行政からサポートをすることは可能である。駐輪場の整備についての実現可能性の相談や、資金の補助などでサポートする。また、区でも駐輪場整備の援助については検討を重ねているところである。

委員

- ・ 景観委員会にも参加しているが、そこでも商店街の景観を統一して、商工業を盛り

立てていこうという意見が出ていた。これはこの懇談会とも重なる話であると思うが、区内の横のつながりが希薄なのではないか。他の課や部と重なる話題について、連携して有機的なつながりを構築しなければと思うが、区ではどのように共有を図っているのか。

事務局

- 区内ではこの懇談会と平行して、区内の検討会を設けて実施している。そこでは部長4人と課長が16人出席しており、全庁にわたる横の連携を図っている。広報、環境、まちづくり、様々な分野の代表が出席して、情報を共有しており、こちらで産業計画をまとめていくようになっている。

委員

- 商店街は区から援助してもらって電線の地中化などを進めているが、援助しても放っておけば商店街がマンションや住宅地になってしまうのだから、それを防ぐために20年は商業を継続するような規制が必要ではないか。

委員

- 要望の中にぜひ入れてもらいたいことを4点あげたい。
 - 区で推進するアニメの著作権を自由化する。
 - 商店街の飲食店で餃子のコンクールを実施する。
 - デザイン都市練馬を実現するために、屋根をみどりに統一し、綺麗にする。
 - 水耕栽培も農産物であること

商工業振興計画策定支援業者

資料1中、3「商工業振興の推進」について説明

座長

- 最後に産業振興会館のことが突然入っており、やや唐突な印象を与える。重要な施設であるのなら、前段でもっと触れるべきだが、提言とどのように関わるのか。

事務局

- これまでの懇談会において、工業支援においてワンストップで相談できる窓口が必要であるとの意見が出されたことを受けて、その具体的実現策として入れたものである。

委員

- ・ アニメの拠点になるということも明言してもらいたい。

事務局

- ・ 産業振興会館は、区の計画として産業振興の拠点として整備されることが既に決定されている施設であり、当部でも力を入れている。これについてはご指摘どおり、もっと前の段階でも説明を補うこととしたい。アニメと都市農業については別に計画が推進されているので、この商業振興に焦点を当てた本提言では多く触れる必要がないという方針でいたが、今回、委員から練馬区の特徴産業を重視してもらいたいというご意見が多かったことを受け、分量についてももう少し多くする方針で検討したい。

委員

- ・ P14、「提言のおわりに」のところに、練馬の良さ、魅力が持続していくような仕組みや思いを盛り込んでもらうことはできないだろうか。変化に対応はするが、変化につぶされていくことではない、ということを示してもらいたい。

委員

- ・ P14、「がんばる事業者、～を応援」という文言があるが、がんばれないところは切り捨てるのか。むしろがんばっているところは放っておいてもがんばるのではないか。提言がそのようなものであってほしくない。

委員

- ・ しかし、そのような考え方が悪循環につながっている現状がある。悪循環を断ち切り、善循環をもたらすためにはがんばるところを応援しなければならない。

委員

- ・ がんばれないところを切り捨てるという意味ではなく、がんばっている事業所ですら、明日はどうなるか分からないという現状を認識して、まず今息をしているところを応援しなければならないのではないかと。私はこの文章は否定的な印象はないと思う。

事務局

- ・ 客観的にがんばっているかどうかには焦点を当ててではなく、がんばる意欲のある、がんばりたいと思っているところから重点的に支援していくという趣旨の文章であったが、「がんばる」という表現の受け取り方が多様だということが分かったので、表現を検討したい。

3 検討委員会・懇談会の進め方(案)について

座長

- ・ 今日出た意見を反映したものを次回の懇談会（3月15日）前に送付し、3月15日に再度意見をいただくこととしたい。そこで出た意見をさらに反映させ、提言書をまとめることとしたい。意見の聴取は3月15日が最後になるので、それ以降の意見の反映は座長に一任していただくことになる。

4 その他

事務局

- ・ 資料1の末尾に委員名簿の見本を入れたが、今回の提言書にもこのような名簿を入れる予定である。差しさわりのある方や事情などあったらこの場でご発言願いたい。

一同

- ・ 異議なし。

座長

- ・ 資料3については前回の懇談会の議事録なので、委員の方は目を通し、各自の発言内容などにつき意見のある場合は個別に事務局に修正等の申し出をしてもらいたい。

事務局

- ・ 次回の懇談会は3月15日18時30分を予定していたが、同日の3時頃からの開始で再調整している。後日決定して連絡する。

以上